

(2013. 8. 16～31)

第2組 光泉寺 佐野慈

「教如上人」

真宗大谷派、いわゆるお東さんと呼ばれます東本願寺を創立された教如上人のご命日が10月5日に当たり、今年には四百回忌になります。京都の東本願寺では4月2日から4日まで教如上人四百回忌法要が厳修されました。この法要をご縁に様々な場面で教如上人の足跡や功績等が採り上げられ、そのご生涯について学ぶ機会を得ました。

それまで一般的に知られている教如上人の理解は、東西分派の始まりを作った方とされ、私自身もそのように理解していました。しかしその教如上人が生きられた時代は、まさに戦乱の世と言われる戦国時代で、親鸞聖人からの法統が織田信長によって攻め滅ぼされようとする中において、大坂石山合戦では徹底抗戦し敗れ撤退しますが、その教訓から次の豊臣秀吉とは徹底抗戦から融和を図りました。

時代の変化は目まぐるしく、秀吉の対抗勢力であった徳川家康が政権を握り、豊臣側の勢力が一掃される中、秀吉と融和した本願寺は東西分派することにより、家康と協力して本願寺を護ることが出来ました。

教如上人の、時代の流れを読み取る力がなかったら、本願寺そのものが無くなっていたとも考えられます。歴史的事実としては東西分派となりますが、本願寺の法統を守るための結果であり、そのお陰で現在の本願寺が残っていると考えることが出来ます。教如上人四百回忌法要を縁として教如上人の法統を死守しようとした熱い思いを知り、語り継いでいかななくてはならないと実感したことでありました。